

# 日 本 史 A

(解答番号  ~ )

**第1問** 次の会話文は、高校生のマコトさんが祖母の家で曾祖母(池上東子)の遺品の整理を手伝った際に、曾祖母の父親(駒場公三)の履歴書と、曾祖母が持っていたラグビー大会のパンフレットを見つけ、祖母と交わしたものである。この会話文を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 22)

マコト：公三さんって人は、40年以上も陸軍にいて、測量をしていたんだね。履歴書に「外地」ってあるけど、どこを測量していたのかなあ。

祖 母：㉔公三さんは東子さんが小学校に入った年に、満州やロシアを測量したみたい。第一次世界大戦が終わった頃ね。満州では軍人の身分を隠していたそうだよ。

マコト：危険なこともしてたんだね。㉕敗戦後にアメリカ軍で仕事をしたというのは興味深いね。ところで東子さんは、いつ生まれて、何をしてたっけ？

祖 母：公三さんが陸軍で測量手をしていた時、ちょうど大正改元の年(1912年)に東子さんが生まれたの。東子さんは16歳で高等女学校を卒業したけれど、そのころの日本は、 ようだね。ここにあるパンフレットは、就職した東子さんが で働いていたところに観戦したラグビー大会のものみたい。その少し後に結婚してからは、ずっと専業主婦だったはずだよ。

マコト：昔は家事が今よりも重労働だったんでしょ。

祖 母：そう。でも、㉖戦後にいろんな電化製品が出て、家事が楽になったって東子さんは喜んでいたね。

マコト：公三さんの生活の方はどうだったのかな。

祖 母：晩年の公三さんはよくテレビを見てたね。1970年に90歳で亡くなるまで、私も一緒によく見ていたの。

マコト：公三さんが生きていた間に、世の中は大きく変わったんだろうね。

履歴書

履歴書		駒場公三	
年	月	明治十三(一八八〇)年九月九日生	
明治二十六	四	中学校入学	
明治三十一	三	同卒業	
明治三十四	十二	現役兵として陸軍に入隊	
		この間	<b>ウ</b> 戦争に従軍
明治三十八	十二	参謀本部陸地測量部修技所に入學	
明治三十九	十二	同卒業 陸地測量手に任命される	
		この間	内地及び外地の測量に従事
昭和十三	一	陸地測量手を依願退職 陸地測量部嘱託となる	
		この間	地形測量並に測図指導に従事
昭和十九	六	陸地測量部嘱託を退職	
昭和二十六	二	米国防留軍測量隊に勤務	
昭和二十八	五	米国防留軍測量隊を退職	
		右相違 <small>これなくなり</small> 無之候也	
昭和二十八(一九五三)年十一月		駒場公三	

パンフレット

全国中等学校ラグビーフットボール選手権大会優勝校一覧(1936年発行)

開催年	優勝校	所在地	開催年	優勝校	所在地
1931年	京城師範学校	朝鮮	1934年	秋田工業学校	秋田
1932年	京城師範学校	朝鮮	1935年	鞍山中学校	満州
1933年	京城師範学校	朝鮮	(同点優勝)	台北第一中学校	台湾

## 日本史A

問 1 空欄  に入る、当時の社会的背景を表す文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 経済統制が強まって、ぜいたく品が禁止されていた
- ② 都市部での求人が増えて、集団就職が盛んだった
- ③ 空襲を避けるために、疎開が実施されていた
- ④ 金融恐慌の影響を受けて、中小銀行の整理が進んでいた

問 2 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① イ 近所で増えてきたスーパーマーケット      ウ 日 清
- ② イ 近所で増えてきたスーパーマーケット      ウ 日 露
- ③ イ 駅近くにあった百貨店(デパート)              ウ 日 清
- ④ イ 駅近くにあった百貨店(デパート)              ウ 日 露

問 3 下線部㉔に関して、次の史料X・Yは、駒場公三が従事した年の、満州とロシアでの測量に関するものである。この史料X・Yについて述べた文として正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

X 作業員は嫌疑を避くる為(中略)変名を用ひ表面軍衛<sup>ぐんが</sup>(注1)との関係を絶ち純然たる一個人として領事館より護照<sup>ごしやう</sup>(注2)其他必要なる免許証の下附を受くるものとす

Y 測図作業は護衛兵の掩護<sup>えんご</sup>の許に行動せざれば頗る危険なるを以て左の如き護衛兵員を要す(中略)上陸爾来<sup>じらい</sup>(注3)第十二師団長の隷下<sup>れいか</sup>(注4)に属す

(注1) 軍衛：軍務を取り扱う役所。

(注2) 護照：旅券、パスポート。

(注3) 爾来：以来。

(注4) 隷下：配下。

(X・Yともに『外邦測量沿革史』)

- ① Xはシベリア鉄道の着工年に，満州で行われた測量について記している。
- ② Xはシベリア出兵の出征年に，満州で行われた測量について記している。
- ③ Yはシベリア鉄道の着工年に，満州で行われた測量について記している。
- ④ Yはシベリア出兵の出征年に，満州で行われた測量について記している。

問 4 下線部⑤に関連して，戦後の日米関係に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて，古いものから年代順に正しく配列したものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 4

- Ⅰ アメリカによる日本の防衛義務が明確化され，在日米軍の行動に関する事前協議制が定められた。
- Ⅱ 日本はアメリカの援助を受けるとともに，防衛力の強化を義務づけられた。
- Ⅲ 日本市場の閉鎖性を問題視したアメリカは，農産物輸入自由化を要求した。

- ① Ⅰ－Ⅱ－Ⅲ                      ② Ⅰ－Ⅲ－Ⅱ                      ③ Ⅱ－Ⅰ－Ⅲ
- ④ Ⅱ－Ⅲ－Ⅰ                      ⑤ Ⅲ－Ⅰ－Ⅱ                      ⑥ Ⅲ－Ⅱ－Ⅰ

問 5 パンフレットにある優勝校に関して述べた次の文X・Yについて，その正誤の組合せとして正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 5

- X 鞍山中学校がこの大会で優勝した1935年には，満州は日本の影響下に置かれていた。
- Y 京城師範学校は，朝鮮総督府と同じ都市にあった。

- ① X 正    Y 正                      ② X 正    Y 誤
- ③ X 誤    Y 正                      ④ X 誤    Y 誤

## 日本史 A

問 6 下線部㉔に関連して、次の表 1 は、戦後の耐久消費財の価格と世帯ごとの普及率、大卒男性の初任給をまとめたものである。この表 1 に基づいて戦後の生活について述べた文として正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

6

表 1 大卒男性の平均初任給と耐久消費財の価格・世帯普及率

(単位：円)

	1955 年	1960 年	1965 年	1970 年	1975 年
大卒男性の平均初任給(月額)	12,907	16,115	24,102	40,961	91,272
電気洗濯機	25,500 (—)	24,800 (45)	53,000 (69)	38,600 (88)	68,500 (98)
白黒テレビ	89,500 (—)	58,000 (55)	73,800 (90)	— (90)	— (49)
カラーテレビ	—	500,000 (—)	198,000 (—)	165,000 (26)	132,000 (90)
電気冷蔵庫	—	62,000 (16)	57,800 (51)	63,500 (85)	113,500 (97)

(『物価の文化史事典』により作成)

(注) ( )内の数字は普及率(%)。

(注) 表中の初任給は、事務系大卒男性の全産業平均値(日経連調査)。

(注) 表中の耐久消費財価格は、メーカー主力機種標準価格。

- ① いざなぎ景気が始まる前年には、カラーテレビは、大卒男性の平均初任給 6 か月分で購入できるようになっていた。
- ② 大阪で万国博覧会が開催された年には、電気洗濯機・電気冷蔵庫が、世帯の 9 割以上に普及していた。
- ③ 自衛隊が発足した翌年には、白黒テレビは、大卒男性の平均初任給 6 か月分で購入できるようになっていた。
- ④ 最初の先進国首脳会議(サミット)が開催された年には、カラーテレビの普及率が白黒テレビの普及率を超えていた。

問 7 マコトさんは、駒場公三の生きた期間に世の中が大きく変わったことに驚き、その生没時の社会の違いについて、次の表2にまとめた。この表2中の①～④について誤っているものを一つ選べ。 7

表2 生没時の社会の違い

	生まれた時	亡くなった時
年代	1880(明治13)年	1970(昭和45)年
家族の状況	戸主と長男の権限が強かった	① <u>核家族が増えた</u>
地方の状況	北海道で開拓事業が実施されていた	② <u>沖縄の施政権が日本に返還されていた</u>
政治の状況	③ <u>自由民権運動が広がり、多くの結社や政社が作られていた</u>	自由民主党が政権についていた
世界の状況	④ <u>列強は競って植民地を獲得していた</u>	米ソ中心の冷戦が続いていた

## 日本史A

**第2問** アメリカ合衆国ハワイ州の高校と交流を持つ日本の高校の授業で、日本とハワイとの関係についての歴史を調べることになった。次の文章は、調べる課題や内容を設定する際のミキさんとカズさんとの会話文である。この文章を読み、後の問い(問1～4)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 12)

ミキ：ハワイは、19世紀初めから19世紀末まで、ハワイ王国という独立した国だったんだね。

カズ：幕末に、江戸幕府とハワイ王国との間で、条約締結に向けた交渉が行われているよ。結局、条約締結前に幕府は崩壊したのだけど。

ミキ：幕末とはいえ、江戸時代にも日本とハワイとの間に交流があったんだね。

カズ：幕末になるにつれて、㉔日本と海外諸国との交流も活発になっていくよね。江戸幕府は、1866年に日本人の海外渡航を解禁しているから、これを機に、日本の国際交流もさらに広がったのではないかな。

ミキ：海外渡航の解禁は、日本とハワイとの関係の歴史にも関わっていて、1868年に約150人の日本人がハワイに移民として渡っているよ。だけど、幕府が崩壊するタイミングだったこともあって、移民の契約のトラブルも生じ、明治新政府は対応に苦慮したんだって。

カズ：その後、ハワイ王国と日本とは、㉕1871年に条約を結んでいるね。この条約で、ハワイの人が日本人を労働者として雇うことができる、ということが定められているよ。ハワイ王国では、サトウキビ栽培が盛んで、労働者として日本人移民を求めているようだよ。

ミキ：だけど、ハワイへの移民はしばらく行われず、移民事業が本格化するのには、1885年のことのようにだね。㉖1885年からの約10年間、ハワイ政府と明治政府との合意で、約3万人の日本人がハワイに渡航したんだって。

カズ：なぜ、そんなに多くの日本人がハワイに渡ったのだろう。このことについて、もっと調べてみようよ。

問 1 下線部㉔に関して、幕末における日本と海外諸国との交流について述べた次の文 X・Y と、それに該当する語句 a～d との組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 8

X 江戸幕府は、オランダ人の教官を招いて、この地で海軍伝習を始めた。

Y 幕末に来日したアメリカ人宣教師のこの人物は、和英辞典を作成するなど、日本の英語教育にも影響を与えた。

a 長崎

b 浦賀

c ヘボン

d ベルツ

① X — a      Y — c

② X — a      Y — d

③ X — b      Y — c

④ X — b      Y — d

問 2 下線部㉕について、次の史料 1 は日本とハワイ王国との修好通商条約の条文の一部である。この史料 1 に関して述べた後の文 a～d について、正しいものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 9

#### 史料 1

ここに条約を結べる両国の臣民は、他国の臣民と交易するを許せる<sup>すべ</sup>の場所、諸港、及び河々に、<sup>そ</sup>其の船舶及び荷物を以て自由安全に來り得べし。故に、両国の臣民、右諸港諸地に止り、且つ住居を占め、家屋土蔵を借用し、又これを領する事妨げなく、諸種の産物、製造物、商売の法令に違背せざる商物を貿易し、他国の臣民に<sup>す</sup>已に許せし、<sup>ある</sup>或いは此の後許さんとする別段の免許は、<sup>い</sup>何れの<sup>か</sup>廉にても、他国へ一般に許容するものは両国の臣民にも同様<sup>すい</sup>推及<sup>きゆう</sup>(注)すべし。

(『大日本外交文書』)

(注) 推及：おし及ぼすこと。



## 日本史A

- a この条文では、両国の国民が相手国の国内を場所の制限なく往来したり、滞在・居住・商売したりすることができる、ということが定められている。
- b この条文では、通商に関して他国の国民に認めたことを、日本とハワイ両国の国民にも適用する、ということが定められている。
- c この条約と同じ年に結ばれた日清修好条規には、台湾での琉球漂流民殺害事件の賠償金の規定が含まれた。
- d この条約と同じ年に結ばれた日清修好条規は、相互の領事裁判権を認めるなど、対等な条約内容であった。

- ① a・c            ② a・d            ③ b・c            ④ b・d

問 3 下線部㉔に関連して、1885年から1894年までの10年の間に生じた出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 10

- Ⅰ 日本と清国との条約により、両国の朝鮮からの撤兵が定められた。
- Ⅱ 日本とイギリスとの間で、領事裁判権の撤廃などを定めた条約が調印された。
- Ⅲ 朝鮮の地方官が大豆などの輸出を禁じたことに対し、日本政府が朝鮮に損害賠償を求めた。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ            ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ            ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ  
④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ            ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ            ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

問 4 ミキさんとカズさんは、なぜ 1885 年から多くの日本人がハワイに渡航したのか、その理由や背景について興味を持ち、それに関する史料 2・3 を収集した。史料 2・3 の内容に関して述べた後の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 11

**史料 2** ハワイ領事館で書記官を務めた藤田敏郎の回顧録

(当時の外務卿は)我が農民を送り、欧米式農業法を実習し、秩序的労働法を覚え、且つ相応の貯蓄を携へ帰国せしめ、(中略)十数年の後には我が農村の労働方法、大いに改良せらるべしと思惟し(中略)、長防二州(注1)ならびに広島熊本県下において出稼人を募集せしめらる。

(『海外在勤四半世紀の回顧』)

(注1) 長防二州：現在の山口県のこと。

**史料 3** 山口県によるハワイへの海外渡航者の分析

労働出稼者の増加するは(中略)内国に於ては労働者賃金の薄利なるのみならず、世上一般事業の不振なるに従ひ、労働者就業の困難に迫らるるに依るもの、蓋し(注2)多きに在らん。

(山口県「県政事務功程」)

(注2) 蓋し：思うに。

**X** 史料 2 によると、当時の外務卿はハワイに欧米式農業の技術を伝え、移民たちがその対価を得て帰国することを期待していたと考えられる。

**Y** 史料 3 によると、ハワイに渡航した人々の中には、日本での賃金の低さや不況により生活苦に陥っていた人が少なくなかったと考えられる。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

## 日本史A

**第3問** たかしさんとじゅんさんは、明治後期から昭和初期にかけての社会と生活をテーマにして調べ学習をしている。二人の会話文A・Bを読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)  
(配点 22)

### A

たかし：授業では、日清戦争後に産業革命が達成されると、男性労働者を中心に、

① 労働組合が結成されたり、社会主義運動が現れてくると学んだね。

じゅん：私は、労働者の生活環境に関心を持ったんだ。横山源之助は、② 「貧街十五年間の移動」という文章で、日清戦争前後と1911年の東京の下層社会を比較しているよ。

たかし：私は、労働者の家計に注目してみたよ。研究文献を調べたら、③ 工場労働者と、「細民」と呼ばれた貧しい都市住民の家計についてまとめることができたよ。日露戦争後から1920年代にかけて、東京の下層社会は大きく変化したようだね。

問1 下線部①に関連して、労働運動・社会主義運動に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 

12
----

- Ⅰ 友愛会が、鈴木文治らによって結成された。
- Ⅱ 最初のメーデーが、開催された。
- Ⅲ 社会民主党が、幸徳秋水らによって結成された。

- |   |              |   |              |   |              |
|---|--------------|---|--------------|---|--------------|
| ① | I — II — III | ② | I — III — II | ③ | II — I — III |
| ④ | II — III — I | ⑤ | III — I — II | ⑥ | III — II — I |

問 2 次の資料は、下線部①の内容を説明したものである。資料に関して述べた後の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

13

## 資料

日露戦争後における東京の下層社会の変化について、横山源之助は「貧街十五年間の移動」(『太陽』1912年2月)のなかで、(中略)当時の市外地域での雑業者の増加を指摘していた。(中略)

さらにその後、第一次世界大戦期にかけて、(中略)東京の各地域の都市スラムが変化し始めた。そこでは市街地中心部から、都市のスプロール化によって膨張しつつあった近郊へと下層居民が流動していったことがうかがわれる。(中略)

都市スラムの職業構成におけるもっとも重要な変化は、下層民のおもな職業であった人力車夫が、市電の発達などによる交通網の整備によって、急減したうえ、廃業した車夫の一部が「力役型」の単純労働者や雑業者に転業していったことである。

都市下層民のなかで主要な職業のひとつであった人力車夫の減少とかれらの転職の動きは、スラム内部に変動をもたらしたのみならず、単純な筋肉労働による職種、(中略)新たな雑業者の比重を増した。

(石塚裕道「東京の都市下層社会と「細民」住民論」『都市と技術』)

X 工場法の対象となったことで、資料にある人力車夫の労働環境は改善された。

Y 資料によれば、都市スラムは市の郊外へ移動していき、下層民の主要な職業は次第に変化していった。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

## 日本史A

問 3 下線部㉔に関連して、工場労働者と「細民」の家計をまとめた表1・2に関して、その内容と要因について述べた文章として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 14

表1 工場労働者の家計(1か月あたり)

	1916年	1919年	1921年
	円(%)	円(%)	円(%)
実収入計	28.51(100.0)	64.37(100.0)	115.19(100.0)
実支出計	26.41(100.0)	60.49(100.0)	110.40(100.0)
飲食物費	11.55(43.7)	34.21(56.6)	41.00(37.1)
住居費	4.90(18.5)	6.10(10.1)	15.04(13.6)
光熱費	1.71(6.5)	4.30(7.1)	6.27(5.7)
その他	8.27(31.3)	15.88(26.2)	48.09(43.6)

表2 「細民」の家計  
(1か月あたり)

	1921年
	円(%)
実収入計	57.93(100.0)
実支出計	56.66(100.0)
飲食物費	34.84(61.5)
住居費	4.48(7.9)
光熱費	4.30(7.6)
その他	13.04(23.0)

(表1・2は中川清『日本の都市下層』により作成)

- ① 1919年の工場労働者の家計は、1916年に比べて、実支出中の飲食物費の割合が増加した。その要因は、1916年から1919年の間に米価が急騰したためと考えられる。
- ② 1921年の工場労働者の家計は、1919年に比べて、実収入、実支出ともに増加した。その要因は、1919年から1921年にかけて大戦景気があったためと考えられる。
- ③ 1921年の工場労働者の家計は、同年の「細民」の家計に比べて、実支出中の飲食物費の割合が高い。その要因は、1916年から1919年の間に米価が急騰したためと考えられる。
- ④ 1921年の工場労働者の家計は、同年の「細民」の家計に比べて、実支出中の住居費の割合が低い。その要因は、1919年から1921年にかけて大戦景気があったためと考えられる。

## B

じゅん：第一次世界大戦後、特に関東大震災後、都市化が加速的に進み、㉑自由主義・民主主義的な風潮や都市文化が広まって、大都市を中心に人々の生活は大きく変化した、と授業で学んだね。

たかし：うん。㉒俸給生活者(サラリーマン)らの「新中間層」が増加し、都市文化の主な担い手になった。文化の大衆化が始まったんだね。

じゅん：でもさ、農村から見たら都市文化はどのように見えるのかなと思って、㉓ある農民組合の創設趣意書を読んでみたんだ。そしたら、都会は「日に贅沢ぜいたくに赴く」に対して、農村は「貧苦むせに咽ぶ」という文言があったよ。都市に対する恨み、「反都市主義」が見られるね。ただ、趣意書には、農村の「自治」を強調していて、デモクラシー思想や大衆文化の影響も確かに見られるよ。

たかし：そうだね、㉔明治後期から昭和初期にかけての社会について、まとめてみるよ。

問 4 下線部㉑に関連して、1920年代後半の内閣X・Yと、その政策について述べた文a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

15

X 第1次加藤高明内閣

Y 田中義一内閣

- a 社会主義国であるソ連との間に国交を樹立した。
- b 労働者の団体交渉権が法律に記され、同時に治安維持法も公布された。
- c 都市へ移住した地主の貸付地を強制的に買い上げ、農家へ安く売った。
- d 治安維持法が改正され、死刑・無期刑が罰則に加わった。

- |         |       |         |       |
|---------|-------|---------|-------|
| ① X — a | Y — c | ② X — a | Y — d |
| ③ X — b | Y — c | ④ X — b | Y — d |

# 日本史A

問 5 下線部㉔に関連して、1920年代から1930年代の生活・文化に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 16

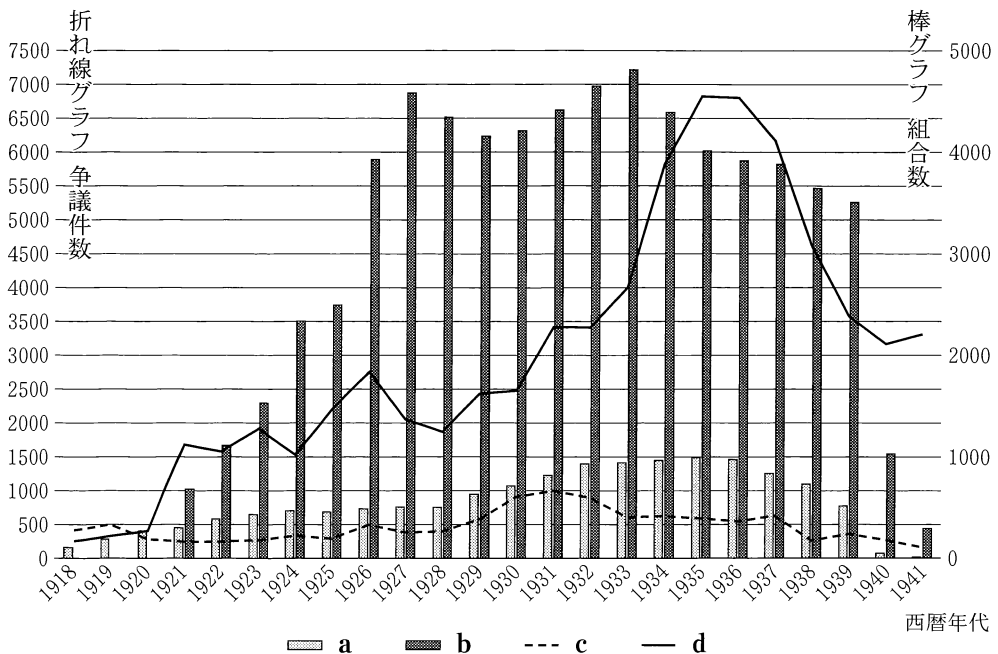
X 大都市の郊外に、和洋折衷の文化住宅が建てられた。

Y 大衆娯楽雑誌である『国民之友』が創刊された。

- |           |           |
|-----------|-----------|
| ① X 正 Y 正 | ② X 正 Y 誤 |
| ③ X 誤 Y 正 | ④ X 誤 Y 誤 |

問 6 下線部㉕に関連して、じゅんさんは、1918年から1941年にかけての労働組合数・小作組合数、労働争議件数・小作争議件数の推移を調べて次のグラフを作った。全体の推移を示したメモを読み、このグラフのa～dに該当するものの正しい組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 17

## グラフ



(『日本長期統計総覧』、『昭和七年小作年報』、『昭和十六年農地年報』により作成)

## メモ

- ・労働組合数は大戦景気を受けて増え、1935年がピークであった。
- ・小作組合数は1933年にピークをむかえた。
- ・労働争議件数は不況で賃金引下げや倒産、人員整理があったため、1920年代後半から上昇し、1931年以降、減少傾向を示した。
- ・小作争議件数は主に土地の貸借をめぐる1930年代前半に急増した。

- ① a 労働組合    b 小作組合    c 労働争議    d 小作争議
- ② a 労働組合    b 小作組合    c 小作争議    d 労働争議
- ③ a 小作組合    b 労働組合    c 労働争議    d 小作争議
- ④ a 小作組合    b 労働組合    c 小作争議    d 労働争議

問 7 下線部㉔に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 大衆文化やデモクラシーの考え方は都市だけでなく農村にも影響を与え、都市と農村の生活格差は解消された。
- ② 大衆文化やデモクラシーの考え方は都市で広がったが農村では受け入れられず、都市への人口集中を促すことになった。
- ③ 俸給生活者ら「新中間層」と呼ばれる人々が増加し、1920年代初頭には都市社会内部の格差は解消された。
- ④ 工業化の進展により生活レベルは上昇したが、1920年代初頭でも都市社会内部の格差は存在していた。



## 日本史A

**第4問** 日本において鉄道が開通して、2022年で150年を迎える。日本における鉄道の歴史とその役割について述べた次の文章A・Bを読み、後の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)  
(配点 22)

### A

明治初期、政府によって産業育成が図られる一環として、㉑1872年、新橋—横浜間に鉄道が開通した。後に大阪—神戸間も開通するなど、当初、鉄道は大都市と開港した港を結ぶ路線が敷設された。鉄道は、気候に大きく左右されず、時間が正確なため、各地の産物を都市や港に輸送する手段として用いられ地域の産業発展に寄与した。例えば、横浜と鉄道で結ばれた群馬県や長野県からは、開港以来の主要輸出品である  が輸送された。また、九州では、産業革命のエネルギー源である  が鉄道により積出し港まで輸送された。

㉒産業発展に伴い、旅客輸送と貨物輸送はいずれも鉄道を中心に拡大するとともに、鉄道の駅を中心とした周辺地域との貨物輸送や都市内の旅客・貨物輸送が盛んになった。貨物輸送では、駅からの輸送において、荷車や馬車などの利用が増加する一方、河川を利用した舟運はその地位を低下させた。旅客輸送では、第一次世界大戦後に、市電やバス、地下鉄などの都市内交通が発展した。また、国内を中心に展開した鉄道網は、㉓20世紀以降の日本の対外関係の下、帝国内の旅客・貨物輸送の双方において重要な役割を持った。

問1 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 綿織物    イ 石炭
- ② ア 綿織物    イ 石油
- ③ ア 生糸    イ 石炭
- ④ ア 生糸    イ 石油

問 2 下線部④に関連して、次の史料は、1872 年に出された改暦を定めた詔書と同年に開通した新橋—横浜間の 9 月の時刻表の一部である。この史料に関して述べた後の文 a ~ d について、正しいものの組合せを、後の①~④のうちから一つ選べ。

20

史料

六時	五時	四時	三時	午後二時	十一時	十時	九時	午前八時	新橋
六時八分	五時八分	四時八分	三時八分	二時八分	十一時八分	十時八分	九時八分	八時八分	品川
六時二十六分	五時二十六分	四時二十六分	三時二十六分	二時二十六分	十一時二十六分	十時二十六分	九時二十六分	八時二十六分	川崎
六時三十四分	五時三十四分	四時三十四分	三時三十四分	二時三十四分	十一時三十四分	十時三十四分	九時三十四分	八時三十四分	鶴見
六時四十五分	五時四十五分	四時四十五分	三時四十五分	二時四十五分	十一時四十五分	十時四十五分	九時四十五分	八時四十五分	神奈川
六時五十三分	五時五十三分	四時五十三分	三時五十三分	二時五十三分	十一時五十三分	十時五十三分	九時五十三分	八時五十三分	横浜

九月十日より旅客の列車、此表に示す時刻の発着にて日々、新橋・横浜各「ステーション」の間を往復する。乗車を欲する者は、遅くとも表示の時刻より十分前に「ステーション」に来て、切符を買うこと。発車時限を遅らせないため時限の三分前に「ステーション」の戸を閉める。

旧曆ヲ廃シ太陽曆ヲ用ヒ天下永世之ヲ遵行セシメン  
明治五年壬申十一月九日

(左：国立公文書館所蔵「<sup>ならびに</sup>汽車運転時限 并 賃金表上達」 右：「<sup>はんこう</sup>太陽曆頒行ノ詔」)

- a 史料のような分刻みの時刻表は、太陽暦が採用される前から作られていた。
- b 史料の時刻表が出された当時は、太陽暦が採用されていた。
- c 動力源である電気の供給が安定しなかったため、この鉄道の定時での運行は困難を極めた。
- d 乗客に対して規律ある行動を求めることで、定時での運行を厳守しようとしていた。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

## 日本史A

問 3 下線部⑤に関連して、次の表1は、1885年から1930年までの鉄道(国鉄・民営鉄道)の旅客輸送と営業距離の推移を表したものである。表1に関して述べた文として誤っているものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 21

表1

年	旅客輸送(千人)		営業距離(km)	
	国鉄	民営鉄道	国鉄	民営鉄道
1885	2,637	1,409	360	217
1890	11,265	11,411	984	1,365
1900	31,938	81,766	1,626	4,674
1910	138,630	25,909	7,838	823
1920	405,820	116,007	10,436	3,172
1930	824,153	428,371	14,575	6,902

(近代日本輸送史研究会編『近代日本輸送史』により作成)

- ① 1890年に民営鉄道の旅客輸送と営業距離が、国鉄の旅客輸送と営業距離を追い越した主な要因として、官営事業の払下げを受けた日本鉄道会社が設立されたことが挙げられる。
- ② 1900年から1910年にかけて、国鉄の旅客輸送と営業距離が増加する一方、民営鉄道の旅客輸送と営業距離が減少した要因として、鉄道の国有化政策が挙げられる。
- ③ 1910年から1930年にかけて、民営鉄道の旅客輸送が増加した要因として、大都市と郊外を結ぶ鉄道の発達や沿線開発の進展が挙げられる。
- ④ 1920年から1930年にかけて、国鉄の営業距離が増加したきっかけの一つとして、立憲政友会内閣による鉄道の拡大政策が挙げられる。

問 4 下線部㉔に関連して、20 世紀以降の日本の対外関係のなかで、鉄道に関わる諸政策・事件を説明した次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 22

- Ⅰ 奉天郊外において、張作霖が乗っていた列車が爆破された。  
 Ⅱ 南満州鉄道株式会社が設立された。  
 Ⅲ 段祺瑞政権に対して、鉄道建設にも関わる巨額の経済借款を与えた。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ                      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ                      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ  
 ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ                      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ                      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

## B

㉔敗戦後も、鉄道は貨物輸送や旅客輸送において重要な交通機関としての地位にあり、人々の移動に欠かせない交通機関であった。ただ、1960 年代以降、乗用車やトラックが普及するとともに、国道や高速道路網の整備によって、㉕自動車が貨物輸送や旅客輸送において中心的な役割を担うようになった。

鉄道は、貨物輸送から、都市間や都市内の旅客輸送に注力するようになった。1964 年に東海道新幹線が開通し、その後、新幹線網は各地に広がった。一方で、過疎に悩む農村や産業が衰退した地域で赤字路線の存在が問題となり、国鉄の経営にも大きな影響を与えた。第 3 セクター(注)への転換や路線の廃止が実施されるなど、都市部での鉄道網の展開とは対照的だった。そのようななかで、㉖国鉄の民営化が行われ、現在の JR 7 社の体制に転換した。

鉄道は日本の産業発展において重要な役割を果たすだけでなく、私たちの生活に密接に関わっている。

(注) 第 3 セクター：国や地方自治体と民間企業の共同出資により設立された事業体。

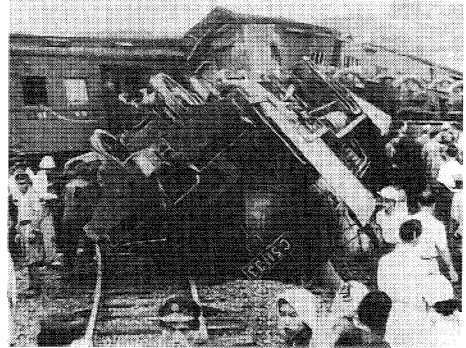
## 日本史A

- 問 5 下線部①に関連して、戦後10年(1945～55年)の間に撮影された写真X・Yと、それに関して述べた文a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 23

### 写真



X 千葉県(総武本線飯岡駅)



Y 福島県(東北本線松川駅付近)

- a 写真Xは、深刻な食料不足の影響で、都市から農村へ買い出しに行く人が多くなったことを示している。
- b 写真Xは、恐慌の影響で、都市から農村に戻る人が多くなったことを示している。
- c 写真Yは、平均して前年比10%ほどの伸び率で、日本経済が急成長していた時期の事件を示している。
- d 写真Yは、企業の倒産や失業者の増大が社会不安となっていた時期の事件を示している。

① X — a      Y — c

② X — a      Y — d

③ X — b      Y — c

④ X — b      Y — d



## 日本史A

**第5問** 高校生のレンさんとトモさんは、授業の課題で昭和期の政党政治と社会について調べることになった。二人の会話文A・Bを読み、後の問い(問1～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(配点 22)

### A

レン：昭和戦前期の政党政治と社会に注目して、日本が大きな戦争に向かってしまった過程を考えてみたいな。

トモ：1924年6月から1932年5月まで政党内閣が続いて、「憲政の常道」と言われたね。㉑この時期に、男性の普通選挙の制度が整えられたよね。

レン：そうだね。ちなみに、㉒最初に普通選挙制度で行われた第16回の衆議院議員総選挙(以下、総選挙)では、二大政党だけでなく、労働者や農民たちが支持した無産政党の立候補者も当選したね。既成政党に不満を持つ人々にとって、貴重な意見の代弁者だったといえそうだね。

トモ：既成政党は貧困・失業への対策を掲げていたし、実際に実行されていたね。でも、昭和初期の社会状況に対して、経済政策などで国民の期待に応えきれず、汚職などもあって信頼を失ったんだよね。

レン：そして直接的には五・一五事件によって政党内閣は終わってしまったんだ。

トモ：この事件は、不況に対する政党政治の対応への不信も一つの理由とされていたみたいだね。そういった状況を背景に、青年将校に対する様々な減刑運動も起きていたようだよ。

レン：へえ。どんな感じだったんだろう。後で㉓当時の新聞記事を見てみよう。

トモ：それはいいね。政党内閣の終焉しゅうえんのあと、1930年代には、㉔学問や思想への弾圧も次々に起きていたね。帝国議会を舞台にした事件もあったよ。

レン：そうだね。政党不信に対して、軍部や右翼など色々な人たちの思惑と結果がつながってしまった側面も無視できないね。

問 1 下線部㉔に関連して、近代日本の選挙制度について述べた次の文 X・Y と、それを定めた時の首相 a～d との組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 26

X 大政党に有利な小選挙区制が導入された。

Y 直接国税 10 円以上を納める 25 歳以上の男性に選挙権が認められた。

a 西園寺公望      b 原 敬              c 山県有朋              d 黒田清隆

① X — a      Y — c                              ② X — a      Y — d

③ X — b      Y — c                              ④ X — b      Y — d

問 2 下線部㉕に関連して、二人は、第 17、18 回総選挙の結果を次の表にまとめた。無産政党の動向に関連して述べた後の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 27

表

第 17 回総選挙(1930 年 2 月)	
政 党	当選者数
立憲民政党	273
立憲政友会	174
国民同志会	6
革新党	3
社会民衆党	2
日本大衆党	2
労働農民党	1
無所属	5
総 数	466

第 18 回総選挙(1932 年 2 月)	
政 党	当選者数
立憲政友会	301
立憲民政党	146
革新党	2
社会民衆党	3
全国労農大衆党	2
無所属	12
総 数	466

(『日本長期統計総覧』により作成)



## 日本史A

X 第16回総選挙で無産政党から当選者が複数人出た後、日本共産党員に対する一斉検挙が行われた。

Y 第17回と第18回の総選挙では、無産政党から当選者は出なかった。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問3 下線部◎に関連して、二人は新聞記事を調べ、五・一五事件の減刑運動に関する次の史料1・2をみつけた。五・一五事件とこれらの史料について述べたトモさんの発言a～dのうち、正しいものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 

28
----

### 史料1

(前略)その他全国各地の愛国思想団体によつて猛然減刑請願運動が起され、なかには地方民より署名調印を取りまとめつつあるのに、内務省警保局では事件の性質上成行きを重視し、三日重要府県警察部に対して慎重なる内偵査察を厳命した。

(『読売新聞』1932年8月4日)

### 史料2

歴史的な陸軍の判決を前にして全国的に減刑嘆願の運動が更に炎をあげてゐるが、(中略)石光真臣いしみつまおみ中将夫人の鶴子さんと令嬢富喜子さん(中略)等東京の将校婦人を中心の減刑運動が突風の的に起され、この母子が十五日一日だけで五百名の署名を集め、(中略)十六日午後荒木陸相の手許に提出した。

(『東京朝日新聞』1933年9月17日)

- a 史料によると、減刑嘆願は愛国思想団体などによって行われ、全国各地で展開されたことが分かるね。
- b 史料によると、減刑嘆願は全国各地で展開されたけれど、その動きは三か月で終わっており、事件への関心は短期的なものであったようだね。
- c この事件では、高橋是清大蔵大臣が殺害されたよね。
- d この事件では、首相官邸で犬養毅が殺害されたよね。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

問 4 下線部㉑に関連して、学問や思想の弾圧に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 日本共産党幹部の大杉栄らが獄中で転向を声明した。
- ② 天皇を国家の一機関としてとらえる河合栄治郎の学説が批判されて、政府から国体明徴声明が出された。
- ③ 滝川幸辰は自由主義的な刑法学説が批判され、休職処分追い込まれた。
- ④ 労働組合の関係者に続き、経済学者の津田左右吉が検挙された。

## 日本史A

### B

- ト モ：政党内閣が終焉した後も、政党はしばらく存続して影響力はあったし、戦時中にも政党出身の議員もいなくなったわけではなかったんだよね。
- レ ン：無産政党は分裂して、一部は戦争協力の方向へ転換してしまったけどね。
- ト モ：うん。戦時中の政治については、その時期に首相をつとめた<sup>㉔</sup>近衛文麿が圧倒的な国民的人気を集めていたね。近衛の存在は、国民の期待の象徴だったのかもしれないね。
- レ ン：そうだね。<sup>㉕</sup>1940年代、国民は長引く戦争の中で、どういう状況に置かれていたんだろうなあ。当時は必ずしも本当のことが報道されていなかったから、そういった点も含めて考えないといけないね。
- ト モ：ここまでをまとめると、昭和戦前期は政党政治への期待と不満がともに高まっていたんだね。軍部が主導した政党批判や対外戦争が、そうした不満のはげぐちになったりして、結果的には人々の権利や自由が奪われてしまった時代といえそうだね。
- レ ン：<sup>㉖</sup>戦後の政党と政治は、こうした経験も踏まえて展開されていたんだね。現在にも多くの教訓が得られそうだなあ。

問 5 下線部<sup>㉔</sup>に関連して、第1次～第3次近衛文麿内閣の動向を記した次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 

30
----

- Ⅰ 近衛首相は、日米交渉の打ち切りと開戦を主張する東条英機陸軍大臣と激しく対立した。
- Ⅱ 国家主義を唱え、節約・貯蓄など国民の戦争協力を促す国民精神総動員運動を開始した。
- Ⅲ 全国民の戦争協力への動員を目指す新体制運動を展開し、大政翼賛会が成立した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ                      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ                      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ  
④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ                      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ                      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

問 6 下線部㉑について、二人は 1940 年から敗戦までの状況を調査することにした。調査する史料として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

31

- ① 学徒出陣した大学生の手記
- ② 勤労働員に参加した高等女学校生の回想録
- ③ 軍国主義的な教育をしていた国民学校の教科書
- ④ 国民思想の取り締まりを担当した自治体警察の報告書

問 7 下線部㉒に関連して、二人は、敗戦後初の総選挙における政党政治について調べ、戦前からの変化を考えることにした。その内容について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① 敗戦後の最初の総選挙に挑戦した政党は、戦前の既成政党のみだった。
- ② 戦時下の政党政治家たちは、一つの保守政党に全員が参加して議会で最大勢力となっていた。
- ③ 戦前の労働運動や農民運動の活動家の中には、革新政党となった政党に参加した者もいた。
- ④ 戦前に公然と活動することができなかった政党が活動を始めたが、この政党の議員の多くは GHQ によって公職追放処分を受けた。